



2016 そうじゃ 吉備路マラソン

過去最多
1万9166人が
駆け抜けた

そうじゃ吉備路マラソンが2月28日、市スポーツセンター周辺を発着点に開催され、過去最多の1万9166人が早春の吉備路を駆け抜けた。今年も、フルマラソン、大黒天物産コース（ハーフマラソン）、フレヴァンコース（10km）、もっと自分らしく☆キャリアプランニングコース（5km）、おいしそうじゃ！モンテールコース（3km）、カラダにピース☆「カルピス」ファミリーコース（1.5km）、リブックくんわくわくファミリーコース（800m）の5種目2イベントで開催。ハーフマラソンと10kmには今大会から公認の部も設けられ、出場した日本陸連登録者の記録が公認記録となるなど、競技志向のランナーと一般のランナーが共に楽しめる大会になりました。中・四国でも最大級、全国でも第8位の規模にまで成長したそうじゃ吉備路マラソン。ランナーは沿道からの声援とボランティアの温かい支援を背に、思う存分健脚を競い合っていました。

2016 そうじゃ 吉備路マラソン

高校生 国内最高新記録
ハーフ陸連登録者男子の部
ジョエル・ムアウラ選手
(倉敷高)
記録 1時間1分55秒



ハーフマラソン陸連登録者男子の部に出場したジョエル・ムアウラ選手（倉敷高）が、1時間1分55秒の高校生の国内最高新記録で優勝しました。序盤は同じ倉敷高校のチームメイトと併走していましたが、4キロ付近で抜け出すと独走態勢に。最後まで強さを見せつけました。

● 奥山市長も応援

大変多忙な日程であるにも関わらず総社まで駆けつけてくれた奥山市長は、前々回大会に続き、フルマラソンとハーフマラソンのスターターを務めました。また、スタート後も沿道からランナーに声援を送り、大会を盛り上げてくれました



奥山市長からのお礼
このたびのそうじゃ吉備路マラソンでは大変お世話になりました。何より七郷中学校の生徒に大きな舞台を与えていただいたことに感謝申し上げます。これからも両市の連携がさらに実り多いものになるよう務めてまいります。

● 開会式

今大会も仙台市の中学生4人が開会式での選手宣誓を務め、「東日本大震災で支援していただいた感謝を胸に、最後まであきらめずに走りぬくことを誓います」と元気に宣誓をしました



● 仲良く快走

総社中学校の生徒4人と七郷中学校の生徒4人が3kmに出場。笑顔で走り、交流を深めました



仙台市との絆

総社市と宮城県仙台市は、そうじゃ吉備路マラソンと、仙台国際ハーフマラソンで連携協定を結んでいます。このことを受け、奥山恵美子仙台市長と仙台市立七郷中学校の生徒4人が来総。奥山市長はフルマラソンとハーフマラソンのスターターを務め、仙台市の中学生は3kmに出場しました。
また市では、東日本大震災で被災し、両親を亡くした子どもを支援すべく、平成23年に「そうじゃ宮城つ子基金」を設立。5年間にわたり、年間1人当たり10万円の支給を行ってきました。大会前日に行われたそうじゃ吉備路マラソン感謝の会（6ページに「関連記事」）では、奥山市長から寄付者に対して感謝の言葉が述べられ、マラソンと復興支援を通じて両市の関係がより強い「絆」で結ばれました。